

「2020東京オリンピック・パラリンピック」に向けて、昨年のデザイン界は大変残念な状況にあったと言わざるを得ない。言うまでもなく、国立競技場設計コンペとオリンピックエンブレムコンペの白紙撤回である。国民の大きな注目が集まるオリンピック関連イベントにおいて、デザインの価値が貶められ、ひいてはその評価に疑問が生じたことは大変である。

幸い、インダストリアルデザイン業界において、こうした事件は起きなかったが、改めてデザインの社会的役割が問われているといえる。平成28年度におけるJIDA活動は、このような世相にあつて、デザインの公益性を広く認識させるべく啓蒙活動続けていきたい。あわせて、これまでの多様な活動を継続させることによって、インダストリアルデザインを通じた社会貢献を推進していくものとする。

## 1-社会発信と地域貢献の推進発展。

協会の活動は8つのセンター委員会と、5つの地域ブロック活動により構成されている。センター委員会は「インダストリアルデザインの普及と社会的啓蒙」を目的とし、全国レベルでの、社会貢献、社会教育、人材育成、技術支援、資格制度、などの活動を行っている。

一方、地域ブロック活動は、「地域に根差した活動」を基盤とし、東日本、中部、関西の3ブロックを中心として活発な活動が行われている。本年度は昨年度に続き、これらの地域に根差した活動をさらに推進強化していく。特に、地域の地場産業やコミュニティとの連携を強め、インダストリアルデザインを通じた社会的課題の解決や、地域社会の活性化を支援していくものとする。

## 2-五つの活動基本領域における展開方針。

以下に、協会活動における五つの基本機能に関し、平成28年度の活動骨子について述べる。

### ●ビジョン発信

昨年度実施した「デザイン思考フォーラム」の発展形として、総合的なフォーラム等を開催し、多様に拡大変化し続ける「デザインの今日」とは何かを考えていく。また、デザインミュージアム活動や、教育活動などを通じて、より良い社会の実現に資する「インダストリアルデザインの価値」を社会に訴求していく

### ●ネットワーキング

渉外委員会や各ブロック活動における、企業訪問や多種多様のセミナーの開催を継続展開し、広く協会内外の交流の活性化を進める。特に、地場産業の活性化やコミュニティ形成に参画し、社会的役割を果たしていく。

### ●社会教育

昨年に続き、デザイン学会や大学など教育機関と連携を強め、様々なセミナーの開催を行い、広くデザインの社会的価値や役割について考えていく。

### ●人材育成

エコデザイン展など学生や若手を対象とした活動を強化し、人材育成を通じて社会貢献していく。また、国際学生ワークショップも、引き続き継承発展させるとともに、より幅広いアジア領域への展開を進め、国際貢献を推進する。

### ●社会貢献

三回目となるDMゴールドセレクションの定着化を図り、「優れたデザイン価値」を広く社会に発信していく。また、デザインミュージアム構想を、国の関連機関やD8日本デザイン団体協議会と連携しつつ、具体化に向けた歩みを進め、次世代への資産の構築を進める。